

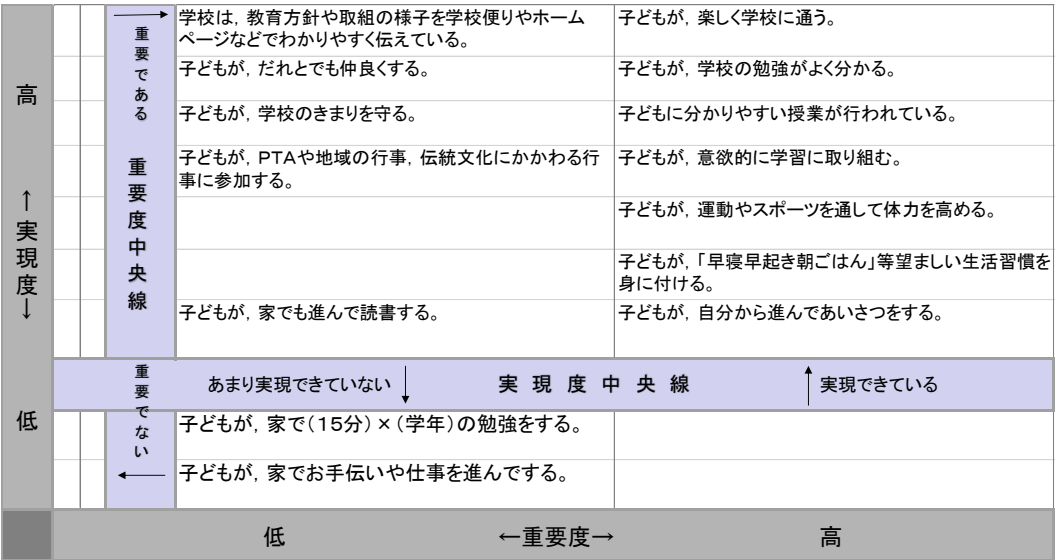
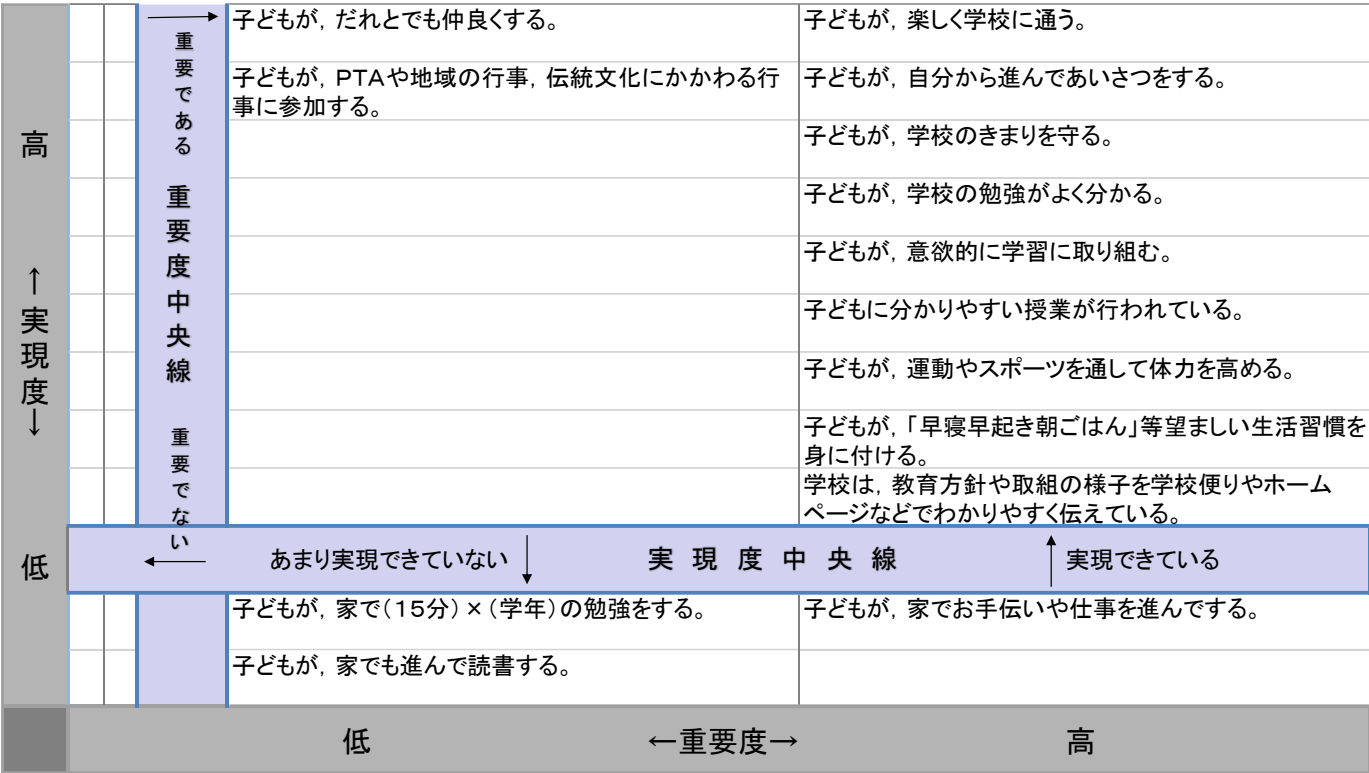
学校運営協議会の皆様

平成30年度後期

学校評価アンケートの結果より

平成31年3月19日
京都市立八瀬小学校
校長 星尾 尚志

今年度もいよいよ終わりにになりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「後期学校評価アンケート」の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。



平成30年度
前期学校評価より

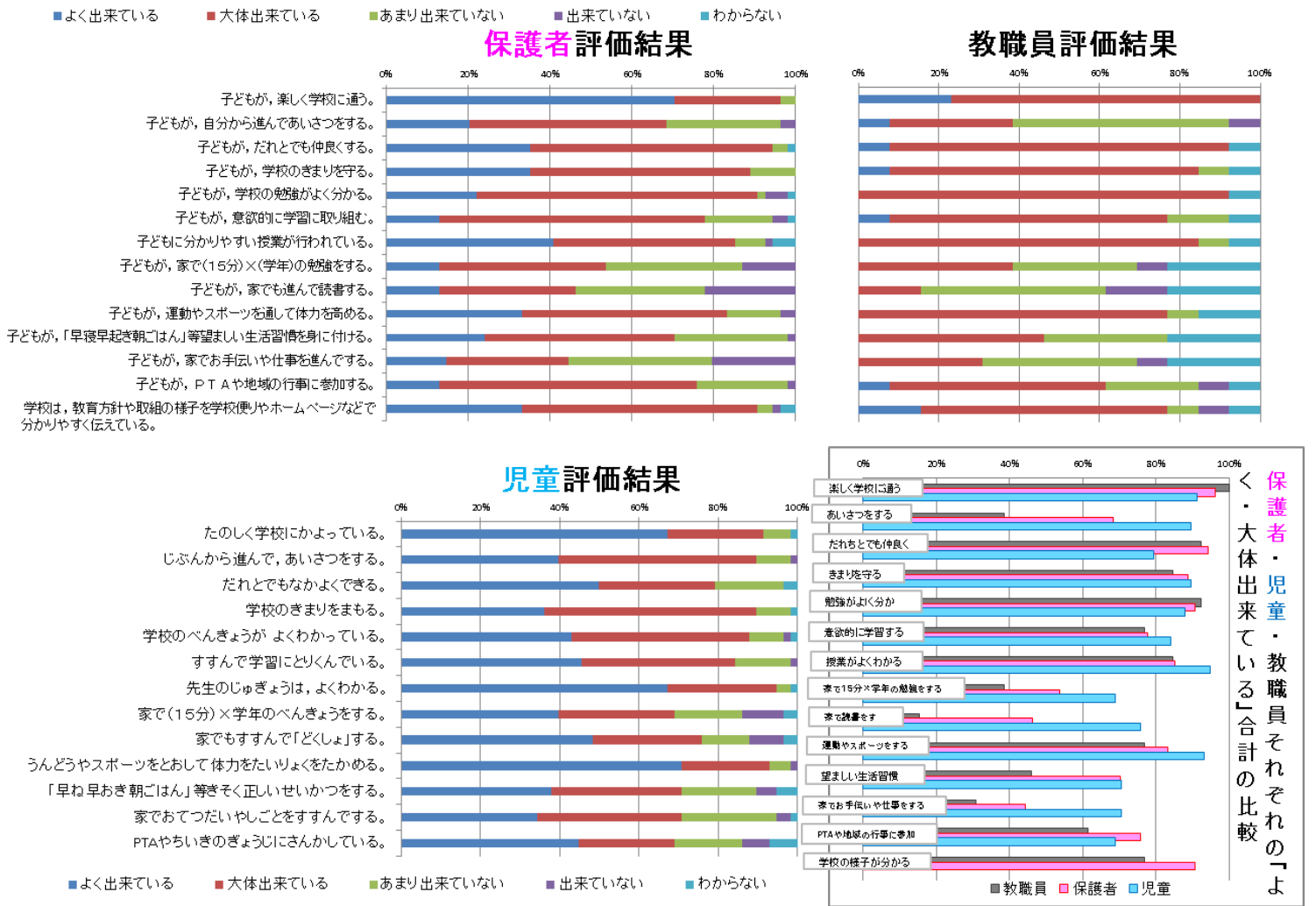
【保護者重要度と実現度の分布結果について】

「重要度」については、毎回の調査ですべて中央より右側に集まり、保護者はどの項目も、「重要である」と考えています。特に今回のアンケートでは、さらに「重要度」が高まった項目がありました。「学校の決まりを守る」、「家でお手伝いを進んでする」こと、「学校の様子や取組を学校だよりやホームページで分かりやすく伝える」項目の重要度が高くなりました。一方、「実現度」については、ずっと話題に上がっていた「進んであいさつをする」が、

できるようになってきたと評価が上がってきました。「楽しく学校に通う」、「だれとでも仲良くする」の項目は、常に実現度が高いです。反対に、「家でも進んで読書する」については、前回少し上がったのですが、今回また少し下がりました。また、「学校の様子や取組を学校だよりやホームページで分かりやすく伝える」の項目については、評価が下がりました。「家で（15分）×（学年）の勉強をする」は、今回も評価が低かったです。

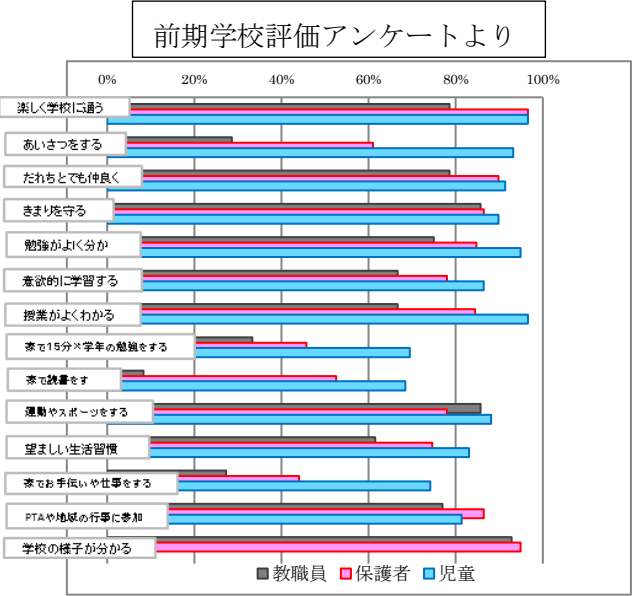
平成30年度前期学校評価（実現度）結果

【項目ごとの実現度の結果について】



八瀬小学校の子どもたちは毎日、楽しく学校に通っていて、友だちと仲良く過ごせていると児童も保護者も、教職員も感じているということがわかります。多少課題はありますが、あいさつも以前に比べてできるようになってきていると評価され、大変良い傾向だと思います。

学校での授業についてはよく分ると児童は答えており、保護者も8割5分は同じように感じています。勉強がよく分かるかとの項目になると、やや割合が減ります。また、前期に比べてもやや減ります。学習に対する意欲も低いわけではありませんが、前期にから少し低くなっています。家庭での学習については、7割前後で推移しています。学校の授業は真面目に受けていて、よく分かるけれど、家庭でも進んで学習に取り組むという意欲に欠け



るため、学習したことが十分理解され定着するまでにつながっていかない傾向があるようです。実際に、京都市で取り組まれていますジョイントプログラムやプレジョイントプログラム（学習内容の定着の様子をみるテスト3～6年生対象）の結果を見てみると、国語では全市小学校と比べて「文章を書く力」が弱いようです。また学年によっては「漢字の読み書き」「物語文や説明文の読解」も苦手としているところもあります。算数でも数や計算でつまづいていて、明らかに勉強不足、復習不足ということもあるようです。家での読書については、前回より児童は実現度が上がっていますが、7割強ぐらいです。家庭での学習・読書の習慣化が課題となりそうです。

今回、「家でお手伝いや仕事を進んでする」という項目の重要度が高くなり、保護者の意識が高くなりました。実現度は児童で7割程度ですが、保護者は4割5分です。ただお手伝いと言われたらするというものから、家族の一員として自分の仕事を決め、自分が責任をもってするというものに変えていくとよいかもしれません。家での仕事は、これから生きていくうえで大切な力となると思います。

「学校の様子や取組を学校だよりやホームページで分かりやすく伝える」という項目の重要度が高くなりました。実現度がやや下がりましたが、学校としては、以前に比べてホームページのアップ数を意識して増やしてきています。子どもたちの学習の様子や学校の取組について、どんどん発信していこうと努力しているところです。その結果、ホームページへの関心が高まり、アクセス数が以前より増えました。今後さらに、保護者が何を知りたいと思っているのか、どんなことを求めているのかを知って、よりよい情報を発信していきたいと思います。

【学校運営協議会の皆さんから】

- ・家庭での自主的な学習については、宿題が終わったら次に何をしたいか分からない子どもが多いのではないだろうか。自分の好きなことや興味のあることを見つけて調べられるような自主学習のノートを持たせるとよいのではないか。少しでもできたことを大きく褒めて、自信をつけさせてあげると続くのではないか。親の協力も大事になってくると思われる。
- ・子どもたちをこれからの社会で活躍していく人材に育てていくために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、それぞれの立場で協力して子どもたちの教育に関わっていくことが必要になってくると思われる。
- ・地域にはいろいろな団体があるが、これらの団体が横のつながりをもって、八瀬の子どもたちを中心にした『子育てネットワーク』を築いていくとよいのではないだろうか。